

番組審議会資料（第20回、令和5年3月 書面にて）

1 開催年月日：令和5年3月（委員のご意見は4月末日まで）

2 開催場所：今回も紙上にて

3 委員

委員総数 7名

委員の氏名：足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

兵頭俊夫（東京大学 名誉教授）、

野田慶人（日本大学 芸術学部 元学部長）

音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、

清水市代（将棋女流棋士／

公益社団法人日本将棋連盟 常務理事・女流棋士会 監事）

吉原由香里（囲碁棋士）

4 議題

- ・特別番組に関して
- ・生放送に関して
- ・形勢判断に関して
- ・編成に関して
- ・新サービス「囲碁将棋プラス」に関して

5 議事の概要

(1) 特別番組に関して

「【囲碁】第30期竜星 芝野虎丸の素顔」

「【将棋】第29期銀河 菅井竜也の素顔」

「【将棋】私、女流棋士になりました シリーズ」

(2) 生放送に関して

「【囲碁】第26期 ドコモ杯女流棋聖戦 挑戦手合三番勝負」

「【将棋】里見香奈女流五冠 棋士編入試験」

「【将棋】第72期 ALSOK 杯王将戦 挑戦者決定リーグ戦、七番勝負」

(3) 形勢判断に関して

(4) 編成に関して

- 「【将棋】王将戦 挑戦者のリーグ戦一挙放送」
- 「【囲碁】囲碁の日 女流特集一挙放送」
- (5) 新サービス「囲碁将棋プラス」に関して

## 6 詳細（各番組の内容）

### (1) 特別番組に関して

「【囲碁】第 30 期竜星 芝野虎丸の素顔」

(初回放送：2022 年 10 月 1 日)

昨今「棋士のプライベートを知りたい」というファンのニーズが高まっており、本シリーズはそれら視聴者の声に応える形で数年前から制作を開始。対局時のスーツ姿・厳しい表情とは違った、私服で晴れやかな表情や様子＝“素顔”をお届けするという番組コンセプトが好評を博し、定番シリーズとなった。

今回、芝野竜星は 2 回目の登場となるため、本人から全くイメージのできないアウトドアロケを敢行。気心の知れた先輩棋士たちとのキャンプを通じて天真爛漫な一面を引き出すことに成功した。

「【将棋】第 29 期銀河 菅井竜也の素顔」

(初回放送：2022 年 10 月 2 日)

菅井銀河は、「トレーニング」をテーマに密着。意外な体力づくりへのこだわりや突然の師匠からの手紙にたじたじになるなど、普段みられない表情を撮影することができた。すっかり視聴者にも浸透してきた本シリーズ。将棋ファンの裾野を広げるコンテンツとして今後も継続して制作していく予定。

「【将棋】私、女流棋士になりました シリーズ」

(放送期間：2022 年 12 月～2023 年 4 月)

スカパー！とのコラボ企画。昨年 5 月、6 月に立て続けにデビューした「現役最年少女流棋士」の鎌田美礼女流 2 級と木村朱里女流 2 級（現女流 1 級）に焦点を当てた番組。全 5 回のシリーズとして 12 月から毎月 1 回ずつ放送している。

鎌田女流 2 級と木村女流 2 級は現役最年少女流棋士として将棋ファンの間では注目度が高いものの、まだ中学 2 年生で、彼女たちの普段の姿を見られる機会はそう多くない。だからこそ、変化と成長の途上にある 2 人の「いま」を映像に残すことには大きな価値があると考え企画した。

第 1 回・第 2 回放送ではそれぞれの人となりが見える盤外の映像を公開。視聴者の、棋士のプライベートへの興味に応える内容となった。

第 3 回・第 4 回はうってかわって、超早指し対局を通じて二人の若き女流棋士が真剣に盤に向かう姿を見ていただいた。鎌田女流 2 級の兄弟子・高見泰地七段が解

説を務め、将棋対局の面白さも伝えることができた。女流棋士の対局映像自体が貴重であり、その意味でも有意義な番組になった。第5回は将棋親善大使の伊藤かりんを交え、和やかなトークの模様を放送する。

昨年は里見香奈女流五冠が女性初の棋士編入試験に挑むなど、女流棋界は大いに注目を集めた。しかし次のスターが育つまでには時間がかかる。今回「現役最年少女流棋士」ということで取り上げたが、今後に期待し、継続して成長ぶりを追う。

## (2) 生放送に関して

今年度は、例年よりも注目の対局が数多くあり、囲碁・将棋それぞれの歴史に残るであろうメモリアルな対局を生で視聴者に届ける、ということに注力した。

囲碁の「ドコモ杯女流棋聖戦」は仲邑 董三段が挑戦者になったこともあり、囲碁界の枠を超え大きなニュースに。社会的要請も考慮し、例年は収録放送だった三番勝負を急遽生放送に編成を変更。対局は仲邑三段が2勝し、史上最年少での初タイトル獲得の瞬間をリアルタイムで視聴者にお届けすることができた。

将棋で大きな反響があったのは、「里見香奈女流五冠 棋士編入試験五番勝負」。女性初の棋士編入試験とあって将棋界の枠を超えて社会的な注目を集め、弊社では決着がつくまでの全対局を生放送した。チャンネル初の試みとして、生放送中に対局者への応援メッセージを募集・紹介したところ、300件を超える応援メッセージが寄せられるなど大きな盛り上がりを見せた。インタラクティブ放送に対する視聴者の関心の高さも確認できた生放送となった。

「王将戦」は、放送権利を持つ強みを活かしつつ、視聴者からの要望に応える形で大幅に生放送の数を増やした(22年9月～23年2月の生放送は34本と、前年同期間(29本)より拡大)。挑戦者決定リーグ戦は、ほぼ全局生放送し、100期目のタイトルを狙う羽生善治九段が挑戦権を獲得する過程もリアルタイムでお届けした。藤井聡太王将 vs 羽生善治九段の「七番勝負」は将棋界空前のゴールデンカード。臨場感あふれる白熱した戦いを、余すことなく視聴者に伝えるために複数のカメラを用い、盤面のみならず対局者それぞれの表情も同時に映すなど、今までにない画面構成の工夫も施し放送している。

今後も、専門チャンネルの使命として、歴史的意義のある対局を中心に積極的に生放送していく予定。

## (3) 形勢判断に関して

弊社では、数年前より、「竜星戦」「銀河戦」はもちろん、生放送時にもAIによる「形勢判断」を導入している。囲碁・将棋に詳しくなくても、その時点の形勢が瞬時に視覚的に判断できるため、対局視聴のハードルが大幅に下がったようで、視聴者からも「わかりやすくなった」「見ればすぐに形勢がわかるので便利」と好評を得

ている。

「第72期 ALSOK 杯 王将戦七番勝負」では、「AIの読み筋を数手先まで掲示する」という弊社では初の試みも実施。「AI表示がパワーアップしている」と視聴者にも好評のようだ。AIが視聴者にとって、今後の盤上の展開を考える助けにもなっているとの声も多く聞かれることから、今後も分かりやすい見せ方を目指して、随時ブラッシュアップを続けていく。

#### (4) 編成に関して

「【将棋】王将戦 挑戦者のリーグ戦一挙放送」

(放送日：2023年1月1日朝10時～夕方6時)

今年1月に開幕した「第72期 ALSOK 杯王将戦 七番勝負」は、若き将棋界のスター・藤井聡太王将に、レジェンド棋士・羽生善治九段が挑戦するという夢の対決。羽生九段はタイトル99期を既に獲得しており、今回の勝負を制すればタイトル100期という前人未到の大偉業を成し遂げることになる。歴史的意義の大きい今シリーズを盛り上げるため、羽生善治九段が全勝で駆け抜けた挑戦者決定リーグの各対局をコンパクトにまとめた短尺版を制作し、元日に一挙放送。後半になるにつれ視聴率は上昇し、七番勝負に向けてさらなる弾みを付けることができた。

「【囲碁】囲碁の日 女流特集一挙放送」

(放送日：2023年1月5日朝9時～夕方6時)

囲碁界では、昨年、国際棋戦で上野愛咲美女流棋聖が日本の女流棋士初の優勝を飾るなど、特に女性の活躍が目立ったことから、視聴者の関心の高い、藤沢里菜女流名人、上野愛咲美女流棋聖、仲邑 薫三段ら人気棋士の対局の中から好局をピックアップ。1月5日「囲碁の日」に一挙放送した。

今後もバラエティに富んだ特集編成を提供していきたい。

#### (5) 新サービス「囲碁将棋プラス」に関して

インターネット配信の新サービス「囲碁将棋プラス」を YouTube とニコニコチャンネルの各サイト内にて2022年12月から開始。月額料金390円(税込)。パソコン、スマホ、タブレット、テレビなどでの視聴が可能なサービス。

2023年1月からは大注目の藤井聡太王将と羽生善治九段の「第72期 ALSOK 杯王将戦七番勝負」を全局完全生中継。無料配信した第1局(1月8日・9日)では、2日目(9日)の同時視聴者数約13万人を記録し、同日のYouTubeライブ視聴ランキングで世界1位を記録した。

今後は「銀河戦」「竜星戦」「新銀河戦」「新竜星戦」といった弊社オリジナル棋戦の、どのメディアよりも早い先行配信を中心に、藤井王将・仲邑女流棋聖など

人気棋士の関連動画をお届けしていく予定。

## 7 委員より届いたご意見ご感想（要約）

### （足立委員）

- ・仲邑菫 v s レジェンド対局や藤井聡太 v s 羽生善治九段の対局など、世間の関心の高い番組や生番組として配信され、専門チャンネルとして充実してきた感がある。
- ・「棋譜」よりも「人」に注目した番組編成はこれからは是非増やして頂きたいと思う。
- ・放送とネット配信の使い分けをどうするか、これからの課題のような気がした。

### （音委員）

- ・チャンネルの性格上、囲碁・将棋ともにその対局の中継を中心に編成するのが基本であるが、棋士個人にフォーカスしたり、その人となりを取材、編集した番組は、囲碁・将棋の魅力を広げるものとなるとして評価したい。
- ・たとえば、羽生善治九段の王将戦への挑戦者リーグ戦を一挙放送するなど、人にフォーカスした編成は良かった。また特別番組「芝野虎丸の素顔」や「菅井竜也の素顔」「私、女流棋士になりました」シリーズなども魅力的だった。
- ・ただ、“女流棋士”という表現を重ねることが今の時代にあっているのかは考えても良い時期に来ているようにも思う。

### （中村委員）

- ・「菅井竜也の素顔」「私、女流棋士になりました」など日頃見られない棋士のプライベートな様子は視聴者には楽しみな企画だと思う。今後も継続して制作していくことを期待している。
- ・王将戦七番勝負は対局も見応えがありましたが、AIによる形勢判断は観る将棋ファン、日頃から将棋を指しているファンにも好評を得ていることから今後も分かりやすい見せ方をお願いしたい。
- ・来年、将棋連盟は創立100周年を迎える。新たな将棋会館の建設も決まり、連盟の役員体制も佐藤康光会長に代わって新たな会長のもとスタートする。囲碁・将棋チャンネルとしても、将棋界をサポートし、100周年に相応しい番組の制作を期待している。

以上